

運動疫学 ニュースレター



日本運動疫学会
Japanese Association of Exercise Epidemiology

令和8年5月13日発行 No.25

第28回日本運動疫学会学術総会のご案内



第28回日本運動疫学会学術総会を5月30日(土)・31日(日)に、沖縄県那覇市的那覇文化芸術劇場なは一にて開催いたします。沖縄で初めての本会開催にあたり、那覇市から共催を賜っていることや多くの方々にご支援いただいていることについて、この場を借りて心よりお礼申し上げます。本会のテーマは「社会と身体活動・運動」といたしました。身体活動・運動と健康アウトカムに関する研究は大きく進展し、多様な身体活動パターンの健康への影響が次々と明らかになっています。一方で、健康日本21における取り組みを見ても、個人レベルでの働きかけのみでは身体活動・運動の増進に十分な成果を上げられていない現状があります。本会では個人への働きかけに加えて、学校、職場、地域コミュニティ、社会経済的背景や法制度などのupstreamな社会要因からの身体活動・運動を促進する新たなアプローチを探求したいと考えております。以下に示す本会のプログラムがその一助となることを願っています。スタッフ一同、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第28回学術総会大会長／名桜大学大学院 高倉 実

「郊外・地方のコンテクストから考える」
演者：井上 茂（東京医科大学）、安永 明智（青森県立保健大学）、北湯口 純（身体教育医学研究所うんなん）、神谷 義人（名桜大学）
概要：身体活動の地域差と推進戦略の全体像を概観した上で、地域コンテクストに着目し、郊外・地方における身体活動の実態と推進戦略を議論する。

●教育講演「運動疫学における効果の異質性評価」
演者：井上 浩輔（京都大学）
概要：誰により効くのかを問う、運動疫学の効果異質性評価の意義と方法を学ぶ。

●一般発表 口頭発表（優秀演題）、ポスター発表

プログラム

5月30日(土)

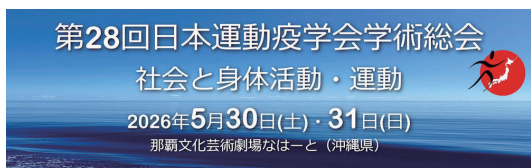
- シンポジウム1「青少年の身体活動促進 (Whole-School Approach to Physical Activity)」
演者：喜屋武 享（琉球大学）、城所 哲宏（日本体育大学）、安部 孝文（島根大学）、今井 夏子（国立成育医療研究センター）
概要：学校を軸に行政・地域・家庭で青少年の身体活動を高める戦略を、国際動向と日本の課題から展望する。
- シンポジウム2「地域性を踏まえた身体活動推進戦略

5月31日(日)

- 市民公開講座（実践者向け）「地域ぐるみで進める身体活動促進」
演者：鎌田 真光（東京大学）
概要：身体活動を地域全体に広げるための普及戦略と評価の要点を考える。
- 学術委員会企画「身体活動・運動・スポーツの社会経済格差」
演者：真辺 智規（慶応義塾大）、根本 裕太（神奈川県立保健福祉大）、山北 満哉（山梨県立大）
概要：子ども・成人・高齢者における社会経済的地位と身体活動格差の実態と縮小戦略を議論する。
- プロジェクト研究報告
最新情報は学術総会 HP (<https://jaee-28th-meeting.jp/>) をご覧ください。

CONTENTS

1. 第28回日本運動疫学会学術総会のご案内	1
2. 第25回日本運動疫学セミナー開催のお知らせ	2
3. 第11回運動と健康：分野横断型勉強会のお知らせ	2
4. 【プロジェクト研究】システムティックレビューに基づく『健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023』の改訂に資するエビデンスの創出	3
5. 疫学・統計方法論セミナーシリーズの開催報告とご案内	3
6. 渉外委員会の活動と国際学会のご紹介	4
7. 私と運動疫学	4



第25回 日本運動疫学セミナー開催のお知らせ

セミナー委員長／医薬基盤・健康・栄養研究所 門間 陽樹



運動疫学セミナーは「身体活動・運動の関連分野における疫学マインドを広めること」を目指し、グループワークによる研究計画立案に特化した演習形式の2泊3日のプログラムです。ベーシックコースとアドバンスコースが設定されており、ベーシックコースではわかりやすいオンライン講義と現地での解説も行われるため、体系的に運動疫学を学びたい方や初学者の方でも参加できるプログラムとなっています。

今回の舞台は千葉県鴨川市です。昨年のセミナーに参加された東洋大学の木村鷹介先生（世話人）のお力添えを得て、東洋大学鴨川セミナーハウスにて行います。セミナーハウスのホームページによると「『海』をロケーションとしたコンセプト。鴨川の市街地に立地し、前原海岸（海水浴場）が目前に広がっています。周辺はレジャー施設も多数あり一年中楽しめます」とのことで、東京駅から特急わかしお／高速バスで2時間程度です。ぜひ、次の世話人…ではなく、学びとネットワーキングのために参加してみませんか？関係者一同、多くの方々の参加を心よりお待ちしております。

日程：2026年8月28日（金）～8月30日（日）
（2泊3日）

会場：東洋大学鴨川セミナーハウス
〒296-0002 千葉県鴨川市前原 356-14

参加申込：日本運動疫学会のホームページ
（6月上旬～中旬頃から開始予定）

受講料：【会員】一般（有職者）40,000円
学生 35,000円
【非会員】一般（有職者）45,000円
学生 40,000円

定員：30名程度（定員になり次第、締め切る予定）

各コースの課題は以下のとおりです。

・ベーシック（講義）コース

【課題】グループワークにて観察研究／介入研究の研究計画を1つ立案し、発表する。

・アドバンス（演習）コース

【課題】グループワークにて社会実装を見据えた研究計画を立案し、発表する。必要に応じて下位課題も設定する
※アドバンスコースへの参加を希望される方はベーシックコースを修了、もしくは、同程度の知識や経験を有することが望まれます。

第11回 運動と健康：分野横断型勉強会のお知らせ

学術委員・広報委員／名城大学 香村 恵介



「運動と健康：分野横断型勉強会」は、身体活動と健康にかかわる多様なテーマを取り上げ、分野を越えた研究者・実務者が学び合い、つながりを深めることを目的としています。

第11回となる今回のテーマは『「知っている」から「使える」へ：研究者のためのAI活用実践』。AIツールの活用方法やその留意点を共有しながら、ハンズオンを通して、明日からの研究活動に役立つ学びを持ち帰っていただける場を目指します。

「AIをもっと使いこなしたい」という方も、「自分の分野でどう活かせるか知りたい」という方も、「ちょっとのぞいてみたい」という方も、どなたでも大歓迎。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

■日時
2026年9月24日（木）15：00～17：00（予定）
※終了後に懇親会の開催も計画

■会場
弘前大学 文京町キャンパス（予定）

■テーマ

「知っている」から「使える」へ：研究者のためのAI活用実践

■概要

研究活動へのAI活用が目される中、新しい情報には日々触れていても、腰を据えて体系的に学び、実際に手を動かしてみる時間を取ることは難しいのが実情ではないでしょうか。本勉強会では、体力医学分野の研究に携わる研究者や大学院生を主な対象として、リサーチクエスションの立案や関連研究の検索、データ分析、論文執筆・スライド作成におけるAI活用の事例と留意点を紹介するとともに、ハンズオンセッションを通じて、参加者が自身の研究に活かせる実践的なスキルを持ち帰ることを目指します。

■講師

金居 督之 氏

（金沢大学 融合研究域 融合科学系 准教授）

「体力医学分野におけるAI活用の現状と課題」

澤村 彰吾 氏

（愛知淑徳大学 健康医療科学部 医療貢献学科 准教授）

「実践で学ぶAI活用」

【プロジェクト研究】システマティックレビューに基づく『健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023』の改訂に資するエビデンスの創出

医薬基盤・健康・栄養研究所 門間 陽樹

2024年1月に厚生労働省から公表された「健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023」は、従来の推奨事項を踏襲しつつ、高齢者に向けた推奨の見直しや、座位行動あるいは筋力トレーニングなどの新たな推奨事項が追加されました。これらの改訂は、アンブレラレビューやシステマティックレビュー、メタアナリシスによるエビデンス統合に基づいています。このように、指針やガイドラインの策定・改訂には、システマティックレビュー等による継続的なエビデンス創出と更新が不可欠です。しかし、これらの研究手法は高い専門性と多大な労力を要し、実際にレビューするとなると気合と根性だけではなく、知識や経験、さらに仲間も必要となります。日本運動疫学会は、日本の身体活動領域を牽引していくことが使命の学会です。実際にこれまでの策定・改訂作業に多くの会員の先生方が貢献されてきました。そこで、これまでの伝統をさらに発展させるべく、ガイドラインの次期改訂に資するエビデンスを創出し、レビューが行え

る研究者を育成する研究基盤を学会内に構築したいと考え、本プロジェクトを立案しました。

2025年10月に学会のメーリングリストを通して参加を呼びかけたところ、運営も含めて計43人（うち学生9人）が参加してくださいました。当初は10人くらい集まれば御の字と考えていたので驚きました。同年11月にキックオフミーティングを開催し、4つのワーキンググループ（WG）（①介入や曝露に詳細な身体活動関連項目を設定したレビュー、②対象者に重点を置いたレビュー、③介入や曝露、アウトカムに社会的影響を設定したレビュー、④介入や曝露に取り巻く環境・技術を設定したレビュー）に分かれて活動を開始しました。現在は7つのチームに分かれて活動しており、身体活動ガイドラインに関する勉強会とWG連絡会議を毎月開催しています。今後、1年かけてレビュー作業を行い、成果発表に繋げていきたいと考えています。

疫学・統計方法論セミナーシリーズの開催報告とご案内

学術委員長・広報委員／放射線影響研究所 本田 貴紀

2026年より、学術委員会とセミナー委員会の合同企画として、「疫学・統計方法論セミナーシリーズ」を開始しました。セミナーシリーズでは、初学者向けに毎夏開催される「運動疫学セミナー」の延長と位置づけ、さらなるステップアップに向けたWebセミナーを、年間を通じて開催します。各回では、情報収集、研究計画立案、データ収集、データ解析、論文執筆といったスキルに特化したテーマを扱い、シリーズを通じて幅広いスキルの獲得を目指します。

2月18日に記念すべき第1回セミナーを開催しました。第1回では情報収集スキルに焦点をあて、「システマティックレビューのための文献検索」をタイトルに、真

喜志まり先生（慶應義塾大学医学部 HTA 公的分析研究室）にご登壇いただきました。図書館司書のバックグラウンドをもつ真喜志先生からは、エビデンス統合を目指すための系統的な文献検索について、データベースの選択、キーワードや統制語の収集と組み合わせ、検索戦略の評価・最適化・調整、報告ガイドライン、効率化のためのツールなど広範な話題を、具体例も交えながらわかりやすくレクチャーしていただきました。事前登録者は80名を超え、情報収集というテーマへの関心の高さが伺えました。ご講演いただいた真喜志先生には、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

第2弾は、科研費の申請を控えた6月ごろに、研究計画スキルに的を絞った企画を鋭意準備中です。疫学・統計方法論セミナーシリーズでは、会員の皆様が実践的な研究力を高められる機会となるよう、様々な企画を提案していきます。詳細は会員メーリングリストやSNSで発信をしていきますので、どうぞご期待ください。

Q: 検索のためのヒント /50

- 一度に1つのコンセプトを検索する
- キーワードを統制語にマッピングし、scope note (定義)を確認
- MeSHの階層構造を確認
- 迷ったらexplodeし、Focusはしない
Focus→手動検索時は役立つ可能性
- シソーラスだけでなく、ネキストワードも併用する
- シソーラスだけでなく、同義語 (entry term, Synonym)も併用する
- 論理演算子で組み合わせる
- 関連する結果から新しい用語を収集する
- 結果と検索履歴を保存する



疫学・統計方法論セミナーシリーズ 第1回セミナー(慶應義塾大学・真喜志まり先生)

渉外委員会の活動と国際学会のご紹介

渉外委員会の活動を紹介します。

1. ASPA (Asia-Pacific Society for Physical Activity) との連携

ASPA はアジア太平洋地域の国際学会で、運営の中心はオーストラリアにあります。身体活動領域における同国のプレゼンスは高く、ASPA は国際的にみてもハイレベルな学会です。日本運動疫学会からも多く先生が参加されています。これまでに、①連携の覚書締結、②若手研究者発表会への参加、③学術総会での共同シンポジウム、などを行ってきました。今後のイベントは以下の通りです。

・2026年6月23日

Early Careers' Research Showcase 2026

渉外委員会委員長／東京医科大学 井上 茂

・2026年12月2日-4日

ASPA 2026 Conference @ Hong Kong

関連情報は下記をご参照ください。

<https://aspactivity.org/>

2. 日本疫学会との連携

日本運動疫学会の会員は、日本疫学会学術総会に会員価格で参加することが可能な提携を結んでいます。日本運動疫学会の会員は日本疫学会の中でもその中心となって活動しています。

3. その他

他学会・団体との連携が渉外委員会の目的です。今後は他の国内学会、国際学会（ISPAH、ISBNPA、ACSM など）との連携を検討してまいります。

私と運動疫学

公益財団法人明治安田厚生事業団体力医学研究所 甲斐 裕子



私と運動疫学の出会いは、1999年春に九州大学・熊谷秋三先生の研究室に進学した時です。修士課程まで運動生理学の研究室にいましたが、「もっと社会とつながる研究がしたい」と転向しました。熊谷先生は、1998年に運動疫学研究会（運動疫学会の前身）を副会長として立ち上げられたばかりでした。

つまり私の運動疫学者としての歩みは、この学会の歴史そのものです—と、勝手に思っています。

私のキャリアに深く影響を与えたのは運動疫学セミナーです。第1回（1999年9月）に参加しましたが、当時は疫学の知識が全くなく、比例ハザードがヒゲハザードに聞こえて、「なぜヒゲ？」と迷っていたほどです。それでも講師の先生方の熱意や温かさ、参加者同士の夜の議論が楽しくて、何度も参加しました。セミナーで得た学びとネットワークは、今も私の研究活動を支えています。

体力医学研究所に着任後は、地域・職域での身体活動

促進研究を一貫して続けてきましたが、興味は個人から集団、そして社会へと広がりました。フィールドに出るたびに「解決したいこと」が次々と生まれ、良い意味で終わりがありません。最近では、高齢労働者の増加に伴う転倒などの労働災害を減らす研究にも着手しました。時代の要請で新しい研究課題が生まれる—これこそ運動疫学の醍醐味ではないでしょうか。

プライベートでは、病気・妊娠出産・子育て・家族の介護などのライフイベントに直面しましたが、今ではネガティブな出来事にさえ「これも研究のネタになるかも」と心密かに楽しんでいる自分がいます。こんな風に思えるのも、生活と人生に密着した運動疫学という学問と懐の深い仲間たちのおかげです。

一方で、エビデンスが積み上がっても現場に届かない現実はまだ課題です。研究と実践のギャップを埋め社会を動かすこと—それが今の自分の使命だと感じています。運動疫学に携わる方が一人でも増え、研究と実践をつなぐ人材が育つよう、微力ながら貢献していきたいです。

日本運動疫学会の最新情報は公式ホームページを確認してください。公式HP：<http://jaee.jp>

・会員の投稿論文を募集しています。

・会員の運動疫学研究を支援しています（セミナー、勉強会、プロジェクト研究）。

・新規会員を随時募集しています。



発行：日本運動疫学会

編集：日本運動疫学会 広報委員会

日本運動疫学会事務局

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15

早稲田大学スポーツ科学学術院内

E-mail：jaee.info@gmail.com